

活動報告書

報告者氏名：真名子寿春

所属：佐賀県立金立特別支援学校分校舎 記録日：H25年2月15日

【対象児（群）の情報】

・ 学年

小学部 4 年生の女兒（A）

・ 障害名

ペリチェウス・メルツバッハ病

・ 障害と困難の内容

肢体不自由があり、上肢の動きに制限がある。具体物操作が困難。言葉で伝える事が困難。

【活動目的】

・ 当初のねらい

かずの学習の際、数の概念の形成を目的に、カード（写真 1）や柔らかいボール（写真 2）を用意して学習を始めた。しかし、上肢の動きに制限が有る A 児にとってカードを指さす、ボールを掴む、離す等の活動が難しく、かずの学習というよりも、上肢を動かす学習のようになっていた。そこで、iPad を効果的に利活用することで、より本来の目的である数の概念の形成という学習を行うことをねらいとした。



写真 1：使用していたカード



写真 2：使用していたボール

・ 実施期間

平成 24 年 9 月から現在継続指導中。

・ 実施者

真名子寿春（教諭）

・ 実施者と対象児の関係

副担任

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

○具体物操作で指導者が「ボールを1つ取ってください」と伝えると、30秒程度時間がかかってテーブルの上に腕を置きそこから掴もうとしていた。掴みやすくするため、ふさふさした柔らかい形状のボールを用意したが一度に2つ掴んでしまうこともあった。

○指導者が「どれが1ですか」と聞いてA児がカードを指さして選択する学習では、片手ではなく両手の人差し指で差そうとしてしまうので、一度に2つのカードを選択している状況が続いた。

・活動の具体的内容

○「countable10」のアプリケーション（写真3）を使った。設定で、操作方法はタップのみ、具体物はおはじき、学習する数は1から3とした。

○数を数える（写真4）、数字を読み上げる音声を聞いてから具体物を操作する（写真5）、数字を読み上げる音声を聞いてから画面上のカードを選択する（写真6）3つの段階の学習に取り組んだ。



写真3：使用したアプリケーションの画面



写真4：学習画面



写真5：学習の様子



写真6：学習画面

・対象児（群）の事後の変化

○操作ミスは少しあるが、要する時間が10秒もかかることなく回答でき、上肢に負担なく数の学習ができた。

○A児の集中学習時間は15分程度であったが、学習への興味関心が高まり、学習時間が10分程度延びた。

○操作方法が簡単なので、他の学習にも興味関心がわいてきた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

○帰省時は、保護者のスマートフォンで遊んでいることもあり、iPadの操作（タップ、フリップ）についてはあまり指導することはなかった。

○事前の学習では理解できているのかどうかと半信半疑な活動であったが、学習活動がスムーズになったためA児が本当に理解しているのか否か、押し間違いをしたのか等を指導者側から判断しやすい状況になった。

・エビデンス（具体的数値など）

○8割以上の正答率と言える実践になった。

・その他エピソード（画像などを含めて）

○操作については理解できているので、自分から操作し、新しい学習（音声から「1」などの数字を選択したり、数字から具体物を操作したり）をしたいという気持ちを表す姿が見えてきた。

○生活単元学習の時間に発表会という時間を設け、それぞれの児童が普段行っている学習の場を設定した。A児は自分が行っている学習の中からiPadを使う数の学習をすぐを選択し、クラスメートの前で堂々と発表することができた。

○体の特性上、体の正中線上での活動を苦手としていたが、両手を画面の前で維持させるなど、スムーズに活動を行うことができて驚いた。

○上記の8割以上の正答率は、指導者がヒントとなる言葉かけ（「さみしい1だね」、「いっぱい3だね」等）を行っていたためではないか考える。この部分を今後検証していく。

○コミュニケーションの学習にもiPadを効果的に活用できている。